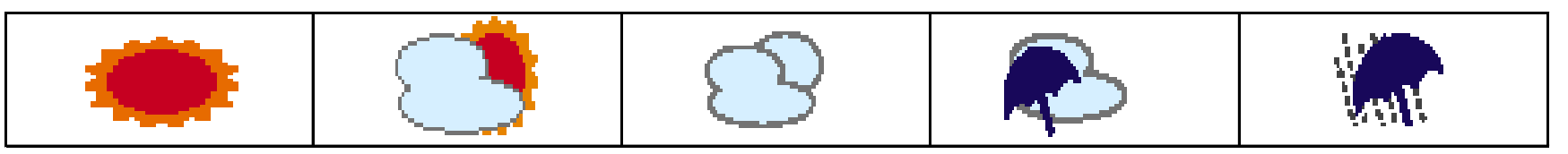
1. 令和5年4月～6月期の景気動向

今期のDI平均値は△31.2ポイント。製造業は9ポイント上昇しサービス業は29ポイントの大幅な改善。建設業、卸売業は横ばい。小売業は8ポイントのマイナスとなった。前期の4～6月の△38.0ポイントから6.8ポイントプラスとなった。

業種 / 項目	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高	△ 25 (△ 31)	△ 18 (△ 38)	△ 29 (△ 32)	△ 37 (△ 36)	△ 25 (△ 12)	△ 17 (2)	△ 64 (△ 39)	△ 50 (△ 43)	19 (△ 16)	13 (△ 33)
採算	△ 38 (△ 57)	△ 44 (△ 69)	△ 25 (△ 44)	△ 22 (△ 51)	△ 22 (△ 11)	△ 13 (△ 11)	△ 50 (△ 34)	△ 40 (△ 38)	0 (△ 45)	6 (△ 44)
資金繰り	0 (△ 19)	△ 13 (△ 31)	△ 10 (△ 28)	△ 13 (△ 23)	△ 22 (△ 22)	△ 25 (△ 22)	△ 40 (△ 40)	△ 38 (△ 36)	△ 13 (△ 32)	0 (△ 38)
業況	△ 32 (△ 32)	△ 38 (△ 50)	△ 29 (△ 38)	△ 35 (△ 29)	△ 33 (△ 33)	△ 43 (△ 11)	△ 50 (△ 42)	△ 48 (△ 40)	△ 12 (△ 41)	6 (△ 29)
経営上の当面する問題点 1位	民間需要の停滞		需要の停滞		仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		材料等仕入単価の上昇	
経営上の当面する問題点 2位	官公需要の停滞		原材料価格の上昇		需要の停滞		仕入単価の上昇		店舗施設の狭隘・老朽化	
経営上の当面する問題点 3位	材料価格の上昇		従業員の確保難		従業員の確保難		需要の停滞		需要の停滞	
業種別コメント	ウッドショックから約2年経過し、木材不足は解消されつつあり、従来の価格水準への回復が期待される。業況は前期と横ばいであるが、完成工事高、採算、資金繰りともに改善しており、来期の見通しについても全項目プラスに転じている。しかし、人材不足、特に熟練技術者の高齢化を問題視している事業所は多く、人材確保、育成が急務である。		資材、原材料に加え、エネルギー価格は依然、高止まりを続けているが、受注、引き合いの回復から今期の業況は9ポイント改善。資金繰りは借替、据置延長ほか、企業努力による利益の確保等により18ポイント上昇した。しかし、来期業況は、現在も続くロシア、ウクライナ情勢や円安等を懸念し、マイナスとなった。		円安による輸入価格の上昇、エネルギー資材高騰の影響を受け続け、業況は前期と変わらず厳しい状況が続いている。加えて、資材の買い渋りや価格転嫁の難しさから売上では13ポイント、採算では11ポイント減少。円安に歯止めが利かない状況を不安視し、来期見通しの業況ではマイナス32ポイントと大幅に減少した。		電気、ガス料金、食品などあらゆる商品の価格が高騰し続け、消費者の購買意欲は低下。資金繰り以外全ての項目でマイナスとなった。必要最低限の目的買いが多く、客単価は減少。また、少しでも価格を抑えている量販店への流出が目立っており、夏商戦に向け、各商店の宣伝、販売方法の工夫が必要である。		コロナ感染症の5類引き下げによる行動制限の緩和から外出行動が高まり、全ての項目が大幅にプラスに転じた。しかし、業種により業況が悪化している事業所は約30％あり、状況に応じた販売価格の設定の見直しや利益確保できるメニューの開発など、固定客、リピート客の確保に努める必要がある。	



とくに好調（50≦DI）　好調（25≦DI<50）　まあまあ（0≦DI<25）　不振（△25≦DI<0）　きわめて不振（DI<△25）

※当所では分析にあたってD・I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。

※（　）は前回調査時のD・I値